

6月 奨学生会議 (5月分振り替え)

植村先生からDMATのお話し & 中四つどいに参加して

6月10日(金)、医系学生サポートセンターにて奨学生会議を行いました。今回は5月分の奨学生会議が流会になってしまっていたので、振り替えとしての開催となりました。今回は奨学生に加え、看護学生も3名参加してくれ、立場の違う観点から色々と意見交流をすることができました。はじめに、熊本の震災支援に早く駆けつけられたDMATのお話しを松江生協病院の植村先生からしていただき、その後中四つどいに参加した学生からつどいの報告をしてもらいました。

植村先生のお話しでは、震災直後の熊本で、どのような活動をされていたのかを時系列に沿ってお話しして下さいました。松江のDMAT隊はある病院の状況調査や避難所の状況調査を主にされ、病院の状況調査では建物の倒壊の恐れがあることが分かり、全患者さんの転院などにあたられました。やはり震災直後の混乱の中では指示系統をしっかりと機能させることが大切であったり、防ぎ得た災害死をなくすことがDMATの根本にはあることなど、震災支援の難しさや重要性、またその中で医療者としてどのように動いていけばいいのかを実際の経験談を聞くことで深く理解することができました。

つどいの報告では、2日間のつどいで学んだことを写真を用いて発表してくれました。今回のつどいのテーマはチーム医療・多職種連携でしたが、分科会で診療所に実際に行ったり、模擬退院カンファを実際に行うことで医師になった際にはトップダウンにならないように、多職種と連携して医療ができるように気を付けたいと思った、など学び深いつどいだったことがよく分かる発表でした。最後には「皆さんも次回のつどいにぜひ参加してください!」と呼びかけもしてくれ、その場にいた学生からも次は行ってみたいという感想が聞かれました。

今回は、DMATのお話しもつどいの発表も多職種連携と深く結びついたお話しだったので、医学生と看護学生交えて学習でき、とても有意義な学習会となりました。今後もこのような機会を多く設けて、将来一緒に医療を担っていく仲間としてつながり作りができればと思います。



☺学生の感想☺

- 災害時には情報が錯綜して大変だというお話の具体例を聞いて指揮系統の大切さがよく分かった
- 災害中にはいつもよりさらに連携が必要だと感じた
- 緊急時の指揮系統など災害時におけるDr.の役割は難しいと感じた
また災害によって様子が変わると言われたので臨機応変の対応が重要だと感じた
- つどいは交流会などととても楽しそうだし勉強になると思った
次はぜひ参加したいと思った

